

Igroup communication

Special 14
2025年1月31日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

今年の抱負

新年会・成人式

修学旅行企画

10・11・12月の研修会

BOOK CAFE PERCH

子どもたちからのメッセージ動画

NPO法人 アイグループ

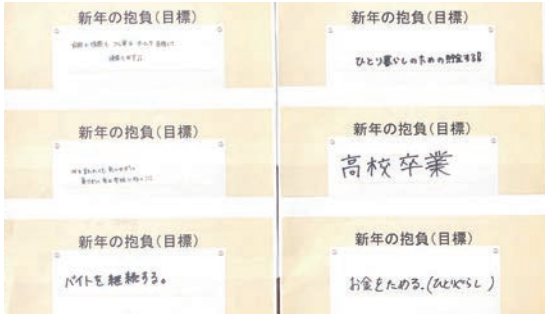
〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013 www.npo-aig.jp

見やすいユニバーサル
デザインフォント
を採用しています。



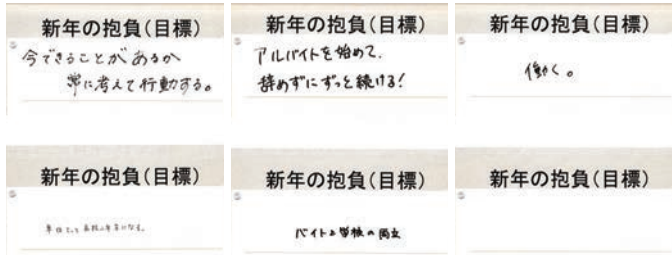
■ えん 「新年の抱負」

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
2025年、こどもたちが有意義にそして楽しく毎日を過ごしていけるよう、しっかりとサポートしていきたいと考えております。
こどもたちが書いた1年間の抱負には上手いかなかったことへの再チャレンジなども書かれていて去年の出来事に負けないという気持ちが強く感じられるものがありました。悔しい気持ちをバネにして頑張ってもらいたいです。
えん抱負です 「こどももおとなも毎日楽しく過ごす」
こどもたちと今年1年間楽しい思い出をたくさん作っていきます！



■ テンポラリー 「新年の抱負」

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
元日は1年の抱負を書くことから始まります。こどもたちと「おめでとう」の挨拶を交わし今年の目標を書きます。
内容はアルバイトや高校を頑張りたいというものが多かったです。悩みながらも今年一年の自分の目標を思い浮かべ自身に言い聞かせるよう書く姿をみることができました。こどもたちが目標達成できるよう職員一同、全力でサポートしていきたいです。テンポラリー抱負「こどもたちとスタッフが健康で毎日笑いが絶えない1年にする」



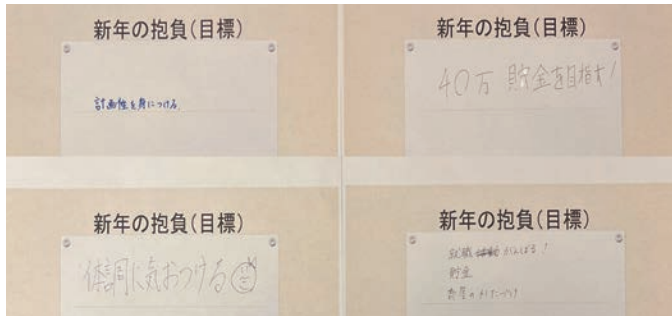
■ Permit 「新年の抱負」

新年あけましておめでとうございます。
昨年是一方ならぬ支援を頂き、誠にありがとうございました。
本年も支援してくださっている方への感謝の気持ちを忘れず、新たな気持ちで一年を過ごしてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。
児童たちは(もちろん職員も)今年の抱負を掲げました。桜の咲くころには新たな場所で生活することになる児童もいます。何処にいても、この気持ちを忘れず、強い意志を持って日々を送っていける様願っています。
2025年1月 Permit職員一同



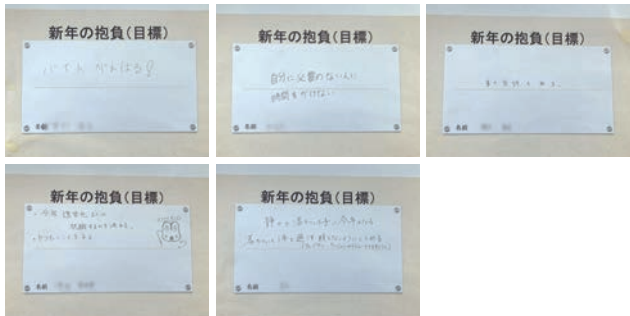
■ LUCK 「新年の抱負」

新年あけましておめでとうございます。
今年の子どもたちの抱負もそれぞれ個性があり、記入後職員と抱負(目標)に向かってどのようにして行けば良いかも一緒に考えました。子どもたちからは前向きな意見が多数上がり、職員もそれに向かって共に進んでいこうと思っています。自分で考え進むことで失敗や成功もあるとは思いますが、常に相談してもらえるような関係づくりを心掛けたいと思っています。
今年は職員もそれぞれ抱負を記入してもらい、全員が初心を忘れずに子どもたちを第一に考え支援していく姿勢を持ちたいと思っています。



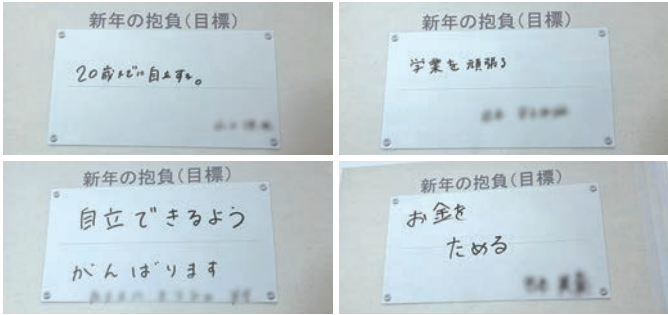
■ テンポラリー小倉北 「新年の抱負」

あけましておめでとうございます。
児童1人1人が一生懸命考えながら新年の抱負を記入していました。
中には半日ほど悩んで目標を考えた児童もいました。ただ記入するだけではなく、その目標に向かって1年どう過ごすのかも一緒に考えました。2025年は入居児童のほとんどが18歳を迎えます。将来に向かって新しい一歩を踏み出そうとする年でもあります。職員も共に寄り添いつつ、悩みや小さなことでも相談できる関係性を築くことができるようにしていきたいと思っています。何事にもチャレンジしながら、たくさん楽しいことや経験を共有していけるよう頑張っていきます。



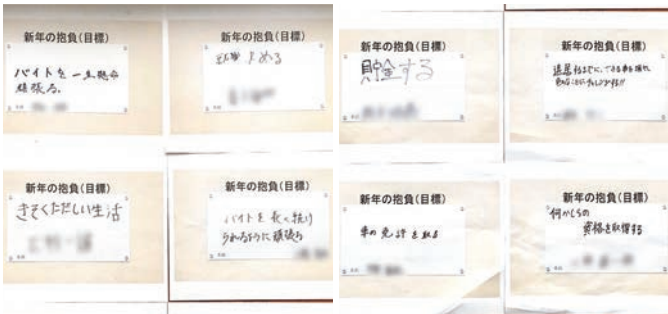
■ ラブ 「新年の抱負」

新年あけましておめでとうございます。
ラブではお正月の飾りつけをみんなで作り、子ども達と職員共に新年の目標を決めました。いくつかある目標からどれを書こうと考えている子やこれしかないと言わんばかりに用紙に大きく書き込む子など、目標は様々でしたが昨年の自分を振り返り考えるという点は共通していました。「自立」や「貯金」といった目標を目指す上で、これから幾つもの選択をしていく子どもたち。その選択肢の幅を少しでも広げられるように様々な経験を一緒にし、自立につながる基盤を整える支援を目指します。



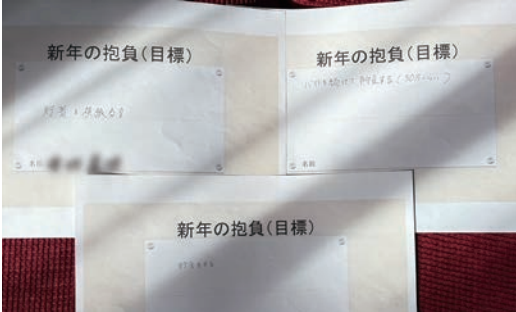
■ 庵 「新年の抱負」

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。
庵では昨年末から新しい入居者も増えて、賑やかな2025年のスタートになりました。子どもたちに記入してもらった新年の抱負も個性豊かで、みんな自身の現状と向き合っている思いの目標を掲げています。
それぞれ違う現状や目標の子どもたちを支えるために、対話を大切にしていくことを職員の目標とします。
子どもたちとも職員同士もしっかりと話し合いながら、同じビジョンを持ち、子どもたちの支援が出来るように精進して参ります。



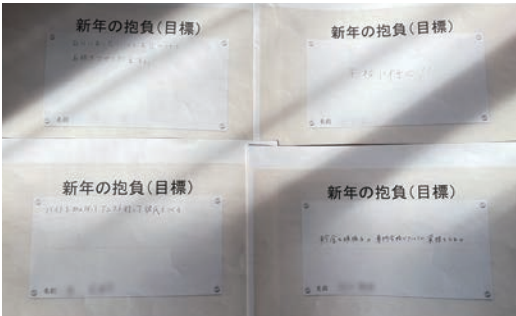
■ テンポラリーくまもと 「新年の抱負」

新年あけましておめでとうございます。テンポラリーくまもとでは、昨年から新しい児童も増えて現在4名の児童が生活しています。2025年の児童の抱負は全員一致で「貯金をする」でした。「留年しないように勉強も頑張る」と話してくれた児童もいました。
自立に向けてバイトや学業を頑張る子ども達。それぞれが目標に向けて頑張っている姿を見ていると嬉しく思います。私たち職員も1人1人子ども達とのコミュニケーションを重ねていき、子ども達が笑顔で安心して過ごせるように。
子ども達が、自信を持って自立への道を進んでいけるようにしっかりサポートしていこうと思います。



■ テンポラリーくまもと2号室 「新年の抱負」

新年あけましておめでとうございます。テンポラリーくまもと2号室では、現在5人の子どもたちが生活しています。
2025年テンポラリーくまもと2号室の児童の抱負は「バイトを見つけ、長続きさせる」「貯金をする」「学校に行く!!」「専門学校でたくさん資格をとる」「バイトをがんばりアシストへ行って彼氏もつくる」などそれぞれです。
職員として子ども達が一番いい方向へ向かっていけるよう後押しをし、子ども達の未来が自分の想像より幸せである事を願っています。



■ inn 「新年の抱負」

2025年を迎え、子どもたちはそれぞれのお正月を楽しんでいます。
年頭に書いて貰った抱負には、「貯金」と言う文字が多く自立に向けて現実的に考えている様子が伺えました。それに合わせて、スタッフ一同も今年の抱負として「新しいことに挑戦し、新たな自分を発見」を掲げました。
「開眼啓発」という言葉のように、視野を広げ新たな視点や気づきを得てこれから起こるであろう課題や失敗にも、子どもたちと一緒に考え自立に繋がる支援をできればと考えています。
また、何をするにも健康第一。
心の中から元気に過ごせるよう寄り添っていききたいと思います。



■ 新年会

新年会を今年も開催しました。 児童も職員も楽しいひと時を過ごすことができます。

熊本4ホームでの新年会が今年も開催されました。今年で3回目の開催です。現在入居中の児童はもちろん退居児童も参加します。今年は入居児童20名、退居児童7名+退居児童の子供とパートナー、職員13名合計42名の参加でした。昨年より人数も増えました。遠くは東京から来てくれた退居児童もいたり、家族で参加してくれたり。年末くらいから新年会の日程が気になる児童も多いです。

入居児童・退居児童の歌の披露・自分が救われた【運転者】という本を紹介してくれた児童もいました。歌では入居児童・退居児童・職員でコラボもあり盛り上がりしました。そして熊本の食事会では児童の楽しみにしているイベントがあります。このイベント中はみんなの笑顔が沢山溢れます。あちこちのテーブルで笑い声が聞こえ職員も笑顔になれます。なかなか会えない退居児童とも会え、話も尽きず児童も職員も楽しいひと時を過ごすことができます。

いつもは理事長が企画・準備していただいていたのですが今年は熊本職員で開催しました。まだまだ未熟でできないことばかりで反省点もありましたが、入居児童・退居児童・職員の笑顔を楽しみに年々良くなっていくよう企画していきたいです。

今回食事会直前に参加が難しくなった児童がいました。悩みが自分では解決できず職員に相談を打ち明けてくれました。前々から悩んでいたようですが打ち明けられず当日に理事長に相談し解決方向へ向かうことができ参加ができました。本人にとっても一つの学びになったと思います。最後に理事長が悩みは相談してください。でも失敗を失敗と思わず経験と思ってくださいと話されました。また司会者も頼れる大人が一人でも増えるように願っていると。毎年集まり退居児童が体験や経験を話し入居児童が退居児童の助言が聞けるような場所にもなればいいなと感じた日でもありました。



■ 成人式

新成人を迎えて。

2025年に成人を迎える児童が、成人式より早目ではありましたが前撮りを撮らせていただくことになりました。この取り組みは当法人を支援して下さっている写真館様のご厚意で行われており、着付け・メイク・写真撮影・アルバム作成をして頂けます。当日は緊張した面持ちの中写真館に入り自分の着たい着物を選び、着付けとメイクをしてもらい撮影に臨みました。着物を着なれていない為歩くことがまもなく、普段しない立ち方や所作に苦戦をしていましたが、カメラマンさんと写真館の方々に言葉をかけてもらいながら自然と笑顔が溢れ素敵な写真が撮れていました。始めは緊張からか硬かった動作や表情も次第にスムーズになり「楽しい」「おもしろい」と言う言葉が聞かれました。

見守っていたこちら写真も撮っている間、今まで携わってきた時間が走馬灯のように思い出され「あんな事もあったな、こんな事もあったな」と感慨深くなり、目頭が熱くなりました。出来上がったアルバムも素晴らしく、撮影時に着ていた着物や子どもの雰囲気に合わせて色使いがされており細やかな心遣いを感じられました。受け取った子どももその豪華さにびっくりし、「あの時撮ってたのがこうなったんやね〜」と言いながら、「見て!見て!可愛いやろ!？」と職員に見せていた事が印象的でした。今まで法人のイベントには参加しなかった子でしたが、去年は様々なイベントに参加し、心も考え方も成長している姿がとても誇らしく思えました。そしてこの写真が良い思い出となってもらえたら嬉しいです。



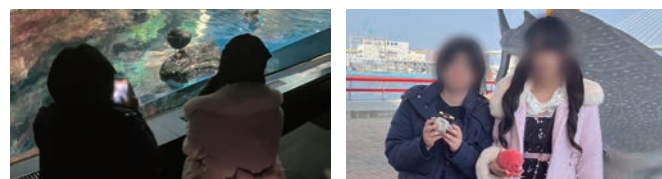
修学旅行（第2組目）

修学旅行企画、第1組目と同じように第2組目も ユニバーサル スタジオ ジャパンに行ってきました。

10月に引き続き無事修学旅行を開催することができました。行先は10月と同じようにユニバーサルスタジオジャパンに行きました。同行する職員と話し合いをして食事やお小遣いの予算を決め、何かあった時の常備薬などを事前に用意しておき当日を迎えました。

しおりを作成し、入居者に見せながら説明をした時は、入居者同士「どこに行きたい?」「たこ焼き食べたい」など楽しそうな会話が聞こえてきました。

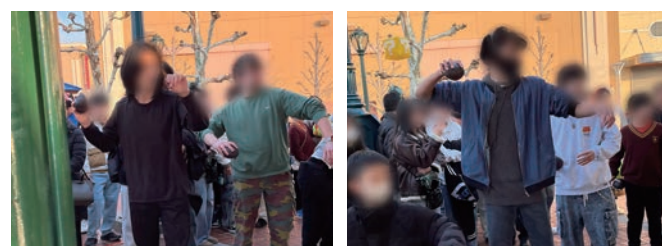
今回は、福岡・熊本から移動して各ホームで行動しました。福岡は始発の新幹線で現地へ向かい、9時台にはユニバーサルスタジオジャパンに入ることができました。熊本も7時台の新幹線に乗り、11時には入場する事ができました。朝の出発の時間が早かったこともあり、初めて行く子は特に移動距離の長さに疲れて、ユニバーサルスタジオジャパンに着いた時に楽しめるか不安がありました。ですが、各々好きなキャラクターのアトラクションに乗ったり、お土産を購入したりと目をキラキラさせていました。



お土産を買う時やアトラクションに乗るときなど待ち時間も長かったですが、みんなで連絡を取り合いながら楽しむことができていました。宿泊先に戻ってから、夜ご飯を済ませるホームもあれば、ユニバーサルスタジオジャパンの近くで食事を済ませるホームもあり各ホームで考えて過ごしていたようです。夜間、自分の気持ちが爆発してしまった子もいましたが、職員間で相談し対応する事で落ち着いてくれました。

2日目は、各ホーム大阪を観光しました。職員と一緒に行動するホームもあれば、行きたいところまでの公共交通機関を調べて自分達で観光する子もいました。自分の場所をきちんと共有してくれたり、写真を撮るのが好きな子もおりホームの携帯に送ってくれたりとても楽しめていたようです。

1日目の反省を生かし、2日目の集合時間は余裕をもって伝えたのですが、各自時間どおりに集合しそれぞれのホームへ帰宅しました。第1回目、2回目と修学旅行を開催しましたが、学校や仕事があり行きたくても行けなかった子もいます。これからもこのような行事を開催できるように職員間でも頑張っていこうと思います。



■ 2024年10月社内研修

2024年10月社内研修

2024年10月8日、熊本城ホールにて講師の坂口明夫先生をお招きし「支援者が、大事にしていきたいこと 受援力・PTG・子どもアドボカシー」をテーマに講演をしていただきました。先生の温かな雰囲気と時折笑いもある和やかな空間の中、リラックスして受講することが出来ました。自立援助ホームにて児童の支援に携わる私たちにとって大切にしなければならぬことがたくさんあります。人それぞれ大切にしたいと思うことが同じだったり違っていたりすることもあるかと思います。現場ではそれぞれの価値観をすり合わせながら支援を行っています。自立とは一人で頑張ることと思われがちですが、信用できる人、頼れる人を作り適切なタイミングでSOSを出せるようになることが自立へと繋がることを学びました。児童にとって身近な大人である私たちとの関係性がいかに大切であるか、困った時に「助けて」を言える環境を提供できているか考えさせられました。児童が過ごしてきた過去の時間は変えられないが、未来は変えられること、頑張っていることを認め「頑張ったね」ではなく「頑張ったね」をたくさん伝えていきたいと思いました。児童が抱えている問題は児童本人が一番理解しており解決策も児童本人が持っているため、支援者として児童の考えの間違いを正すのではなく、本人の自己決定力や自己責任力を育て主体性を持たせること、それぞれの課題に直面化させることが「支援」であることを理解することが出来ました。その支援のため

に、制度を知り、職員同士のチームで工夫、協力し互いに支え合いながら日々の業務に尽力を尽くすことが出来ればいいなと思います。失敗することがあったり、上手くいかない事も多々ありますが、児童の話だけでなく職員同士の話もたくさんしながら「きつい」「辛い」思いを共有し共に支え合うことでよいチームワークとなり、よりよい支援が出来るのではないかと思います。

＜受講された皆さんの研修で学んだことで実践できそうなことをご紹介します。＞

- ・言葉掛けを気をつけていこうと思う。
- ・情動調律、大丈夫ではなくどうした？という声掛けの工夫
- ・児童に価値観を押し付けないように伝えていく。声掛けを大切にしていく。児童の声をきちんと聴き、寄り添える支援をしていく。
- ・ホームにいる間はたくさん失敗してもらい、職員が何でもしてあげることはなく自分でやらせてみる事が大切。褒めて伸ばす。子どもの意見に同調しない。決断を受け止め、一緒に悩み考える。
- ・声掛けの(頑張って→頑張ったね)と期待より認知するよう心掛ける。



10月社内研修



11月社内研修



12月社内研修

■ 2024年11月社内研修

『児童対応の事例検討会』

11月は各ホームからの事例を基にアンケートを取り、その中から対応の難しい上位2件の事例を発表し、各グループで話し合いをしながらどのように取り組んでいけば良いのかを考える研修を行いました。

事例1件目は「お金について」。貯金を促すにあたって、職員との関係性を作りながらどのような言葉をかけていけばよいかを成功例や失敗例を挙げながら考えました。ただ単に話すのでは話し合いの方向性にまとまりがないと思い、＜①貯蓄を促す話の仕方・会話の持って行き方＞、＜②意識を持ってもらうための具体例＞、＜③行った方が良い対応＞、＜④行かない方が良い対応＞と4つの視点で話し合いをしてもらうことにしました。どのグループも普段から「どう伝えればよいのか？」と困る議題であった為、各グループ共に様々な意見が飛び交っていました。

事例2件目は「自傷行為について」。リストカットやODなどの行為を繰り返す児童に対してどのような対応をしたら良いか、こちらも事例1と同様にこの議題に合わせた4つの視点で話し合いをしてもらいました。とても慎重な議題の為、対応した際の体験談を話す職員の話を聞き、まだ対応したことのない職員はどのように声掛けし接すれば良いのかを各グループ真剣に話し合っていました。

どちらの議題も話し合い後は各グループ内容をまとめ発表する場面を設け、それぞれ職員が意見を聴き、考えを広げるきっかけになったのではないかと思います。

今回初めて法人内で事例検討会を行いました。この2件の事例以外にも毎日様々な出来事が起こります。今後もこのような法人内のホームが集まり話し合いをし視野を広げる研修の必要性を感じました。

■ 2024年12月社内研修

2024年12月5日、長崎駅にあるQ-Lounge NAGASAKIにて講師の中村まり子先生をお招きし、性について「心と身体の主人公になるために」をテーマに講演して頂きました。今回の研修では、初の試みで児童と職員を対象として開催し、たくさんの方にご参加いただき非常に有意義な研修となりました。

性の学習とは、心と体が病気にならないための健康教育で、自分の為にひとりひとりが学んで行動が変化するための学習です。自分を大切にできることが自己肯定感を育てる事に繋がり、自分を大切にできなければ、他の人も大切にできない。多様な生き方があることを理解する。性的被害に遭わない・加害者にもならない為には、性的被害にあいそうな時やあった時に、その場から離れる誰かに相談できるように知識を得る必要がある。年齢を重ねても性に関する知識不足で今更こんなことを誰かに聞けないと感じている人はたくさんいて、私たち支援者も性に

についての知識を持ち、子ども達に支援できるようにしていく必要があると感じました。児童・職員共に、性に関する知識を持つことが、自分を守ることに繋がり、他の人も守ることに繋がっていくと思います。

今回の研修では、児童にも研修の準備や司会進行を協力していただきました。研修後も、中村講師に積極的に質問する姿がありました。知らないことを知れ勉強になった等の感想が多く見受けられました。

＜今回の研修を経て実践できそうなこと＞

- ・生きる為に大切な事、子宮頸がんのワクチン接種は男性も行おう事。
- ・今回参加できなかった児童や性のことで悩みがある人に教えてあげる事ができると思います。
- ・性に対して自然体で語れる、聞ける。
- ・食育や身体を温める事などを児童に伝えていきます。

■ PERCH秋冬のイベント — ハロウィン & クリスマス —

秋はハロウィンパーティー、 冬はクリスマスパーティーを開催しました。

BOOKCAFEPERCHでは、季節をたいせつにしたイベントを実施しています。

参加対象は、アイグループの自立援助ホームに入居中の子どもたち、退居したOBやOG、それからアシストルームで暮らす子どもたちです。

イベントの日には、春日市、北九州市、熊本県、長崎県の各ホームから、いつもたくさん子どもたちやスタッフが参加してくれます。

PERCHが子どもたちに利用してもらえるようになったのは、去年の10月31日。昨年同様、この日に合わせてハロウィンパーティーを実施しました。参加人数も増えたこともあり、今年は30日、31日の2日間の開催です。

ハロウィンカラーのバルーン、ゴーストやモンスター、コウモリの飾りつけ。BGMもハロウィンバージョンで盛り上げます。スタッフの顔をモンスターに加工しピンに貼り付けた「モンスターボウリング」も好評だったようです。仮装して参加してくれる子も、PERCHの仮装アイテムを使って写真を撮る子もみんな楽しそうです。ハロウィン特別メニューのおばけオムライスやモンスターバーガーを席に運ぶと「かわいい!」と写真を撮る声が聞こえました。



2カ月後の12月18日、19日には、クリスマスパーティーを開催しました。昨年は大寒波で雪の中のクリスマスパーティーでしたが、今年もかなりの冷え込みです。冷たい雨のクリスマスパーティーとなりましたが、会場内の熱気はぐんぐん上昇!ハロウィンではブラウン色だったチョコレートファウンテンも、クリスマスに合わせてホワイトチョコレートに。秋冬のPERCH名物となったチョコレートファウンテンは、みなさんに楽しんでいただけたようです。今回のクリスマスパーティーでは、みなさんからのアンケートをもとにゲームや食事を考えました。リクエストに応じてダーツコーナーを企画しましたが、高得点を狙って歓声があがったり、大きく外して笑い声が聞こえたりと大盛り上がり。飲食もみなさんからのリクエストをもとに特別メニューで構成。ツリーがかわいいチーズカレードリア、カップパフェ、みんな大好きナゲット&ポテト。ドリンクではPERCH1番人気のいちごサイダーや、イベント限定Xmasストロベリーミルク、ホットココアが大人気。普段は仕事や学校でなかなか会えていない仲間同士が楽しそうにしている様子がとてもうれしかったです。



就労体験がんばっています!

現在PERCHでは、子どもたちが就労体験を行っています。事務作業をメインに行っている子は、次なるチャレンジはエクセルが使えるようになることです。キッチン作業に入っている子は、少しずつできることが増えており、カフェのOPENの日にも入ることが目標のようです。手が空いたら掃除をした

り、自分で書いたメモを見ながら作業をしたりととても頑張っています。それぞれが前向きに仕事に取り組んでいて、一步一步、自信を積み重ねているようです。これからもみんなの頑張りを見守っていこうと思います。



子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



■ 入居者からのメッセージ

『4年間で思ったこと』 名前:M.Yさん

私はLUCKに来る前はまた別の施設で生活していましたが、退居にあたり自立援助ホームという居場所を教えてもらいLUCKに入居しました。その頃から大人の事が嫌いで信用しておらず、言われる事全てに反発し聞く耳も持たず好き放題していました。迷惑をかけるのが楽しいと同時に嫌いな存在だけど気にしてほしい、構って欲しいという気持ちでした。そんな素行も生活態度も悪い私の事を見捨てず親身に話を聞いて、私に合った解決方法を一緒に見つけてくれたり、私の良い所をたくさん伝えてくれました。自分の内面をちゃんと見て、認めてくれる大人がいるということに

嬉しさと今まで迷惑をかけた後悔の気持ちでいっぱいになりました。もう同じような後悔をしたくないという思いから少しずつ変わり、苦手な事もできるようになりました。LUCKに来て色々な経験をして、人との出会いの大切さを学べたと思います。今年の2月にLUCKを退居しますが私も自立援助ホームの職員さんのような人の良さに気づけて言葉にして伝えられる素直な大人になれるように目指していきたいと思っています。



■ 退居者からのメッセージ

『頼れる人がそばにいる』 名前:T.Sくん

自立援助ホーム庵では、子どもたち一人ひとりの個性をなにより尊重し、寄り添う形で支援を行ってくださっていました。私の中で印象に残っているのは退所後の進路を一緒になって考えてくださったことです。私は高校卒業後、どういった仕事に就くかすごく悩んでいました。自分はどの仕事に向いているのかわからなかったからです。そこで私の長所と短所を教えていただき、自分の強みと弱みを理解し自信にもつながり就職することができました。入社した会社は天職と思っています。今も楽しく働いています。私をよく理解し私に寄り添い私という人物を見つけ出してくれたおかげです。本当に感謝しています。今アイグループで過ごしている方々素直に職員を頼ってください。

いい言葉を頂けます。そして明るい未来を描き出してほしいと私は願っています。職員と喧嘩するのはあなたの一番の理解者であるからです。反発しちゃう反抗しちゃうのもわかる。私も何度も反発し抵抗した。だけどあなたは職員は間違いは何一つ言っていないと気付いているはず。ここで長い結言を言わせてほしいです。あなたがどんな人であろうと職員は決して諦めず向き合おうとしてくれます。喧嘩して口を開かなくなっても職員は執拗にあなたと向き合おうとする。仕事だからだけではない。本気であなたの将来を明るくしようとしている。そういう職員たちが務めているのがアイグループである。だから職員に思う存分甘えてほしいと私は思っています。



2025年それぞれの門出へと向かって

2 024年秋にカフェBOOK CAFE PERCHで開催されたハロウィンイベントに子どもと職員で参加しました。ビュッフェ形式の食事に子どもは大喜びで、とびきりの笑顔での食事となりました。途中、同行の職員がいなくても他ホームの子どもたちや職員とにこやかに話している姿があり子どもの成長を感じるとともに、ホームの垣根を越えて安心して交流できることの素晴らしさを感じることができました。LUCKのリビングや玄関もハロウィンやクリスマス、お正月の飾り付けを子どもと一緒にすることで、その子が持つセンスを感じられる賑やかな場所となりました。飾り付けをしている際、「お正月をしたことがない」と話す子どももあり、初めてのお正月料理に胸を弾ませていました。また、子どもたちが食べたいメニューを聞き取り、職員の手作りで用意した料理も温かい思い出の一つとして子どもたちの心の中に残って欲しいと願います。2025年の春にはLUCKを離れ就職する子どもや自立へとむけて生活環境が大きく変わる子どもがいます。もしかしたら、進む道が不安になったり迷ったりすることもあるかもしれません。そんな時にLUCKという居場所が安心安全であること、自分の想いを受け入



れてくれる大人がいること、さらには人のぬくもりが感じられるホームであることが、より良い支援へと繋がっていくと信じています。子どもたちが笑顔で自立に向かって進んでいく姿ほど尊いことはありません。2025年のLUCKにどんな出会いがあり、どんな自立という別れがあるのか今はまだわかりませんが、ここで出会う子どもたちが少しでも居心地よく過ごせるように、職員一人ひとりが子どもたちと向き合い、全力でサポートしていけるように邁進していきます。



できることから一歩ずつ

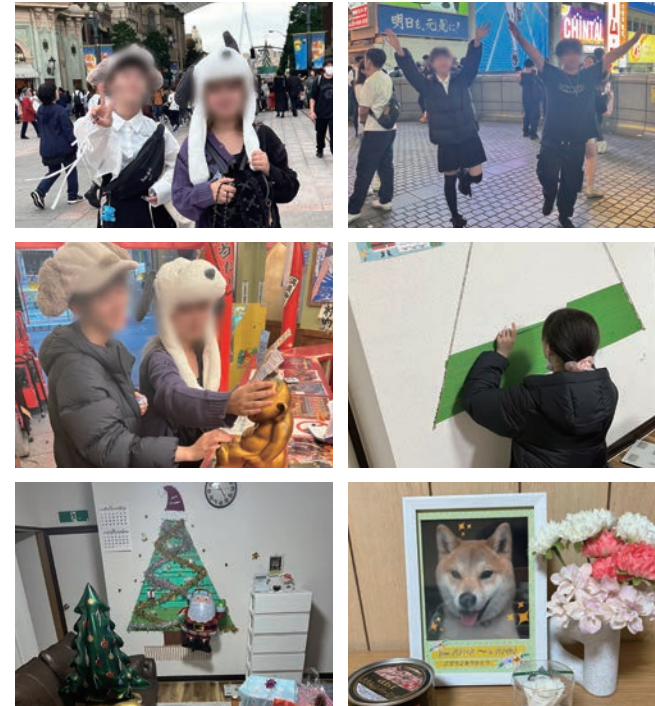
厳 しい寒さが続いていますが、テンポラリ小倉北では6名の児童が生活しています。12月、パーチのクリスマスイベントに参加させていただきました。ビンゴゲームでは、揃うかドキドキしながら楽しむ姿を見ることができました。アイグループの研修会に参加する為、長崎のハウステンボスで1泊させていただきました。初めてのハウステンボスという児童もいて、事前の宿泊準備も自分で考えながらすることができていました。翌日の研修もしっかり聞くことができ、帰宅後には参加できなかった職員にも話をしてくれるなど、児童の成長を感じることができた12月でした。元旦にはホーム近くの神社へ初詣に出掛けました。昨年は大吉がでるまでおみくじを引いていた児童も、今年は1回しかしないと決め、他児と共に結果を見て一喜一憂しておりました。おせち料理は児童と一緒に中身を話し合い、楽しんで味わうことができました。小倉北では今年ほとんどの児童が18歳を迎えます。現在、まだ進路についてたくさん悩んでいます。自立に向けての話も真剣にするようになり、児童の考え方も少しずつですが変化してきている様



子がかがえす。悩みや不安を共有しながら、児童のペースに合わせてできることから一歩ずつ積み重ねていけるように支援していくことを大切にしていきたいと思っています。

日々の成長を大切に

各 関係所の皆さま、平素は多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。おかげさまで、昨年も数多くの貴重な体験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。中でも、修学旅行と題したUSJ企画はとても楽しかったようで、児童たちは自己を解放させ、その思い出は心に深く刻み込まれたことでしょう。そして月々に企画して下さるPERCHでのイベントも、児童たちは毎回とても楽しみにしております。付添と称して同行する職員もとても楽しく参加させて頂いております。そういった数々のイベントを通して、「よし、次も頑張ろう!」という活力になっている事と思います。それだけではなく、日々の何気ない生活からもその思いが伝われば嬉しく思います。Permitが開所して2年弱、嬉しい事は数えきれないほどありましたが、悲しい事もありました。出会いと別れはその最たるものでしょう。その意味を口先だけでなく、心で感じ取れるようになってほしいですし、そういった悲喜交々をどう処理していくかが、人を成長させるのだと信じております。私共の対峙している児童達は、前進後退しながらも確実に成長しております。今後新しく迎える児童がいるならば、



『ここは安心して過ごせる場所であるよ』と胸を張って言えるよう職員一同、研鑽を積んでおります。まだまだ至らぬ所が多いのですが、そういった気持ちのある職員でチームを作り上げていく事が出来ればより良い支援につながれると信じておりますので、今後ともご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

経験から学ぶことの大切さ

夏 の蒸し暑さも少しは和らぎ、朝夕はいくらか過ごしやすくなりました。それでも、昼間はまだまだ暑い10月、バトミントン大会に児童1名、職員1名選手として参加しました。思うように練習する時間が取れず、最後の体育館での練習後はみんな筋肉痛になりながらも大会当日を迎え緊張もあったようですが、応援に来ていた職員・児童の声援を受け実力を発揮することができ、児童部門3位・職員部門優勝と素晴らしい結果を残すことができました。児童たちの団結力や最後まで諦めない姿など見ることができ感動しました。楽しみしていた修学旅行(USJ)。児童3名・職員3名参加しました。日頃、早起きが苦手な児童も朝4時には起き5時前にはinnを出発しお昼前にUSJに到着し、パーク内では2班に分かれ自分たちで決め行動していました。ホテルに戻ってからは、行きたいお店へ電車で行く児童や歩いていく児童等一日を満喫していました。2日目は、inn全員で大阪観光をし21時頃innへ帰宅しました。なかなか集団で行動をする機会が少なく、すごくいい経験と思い出作りができた2日間でした。



12月クリスマス。innでも児童と一緒に飾り付けをしました。クリスマス会では、豪華なメニューに大きなクリスマスケーキと一緒に食べ、クリスマスプレゼントを満面の笑みを浮かべながら受け取る児童たちでした。振り返ると学び多き1年だったと思います。これから先、自立に向けてこの経験の積み重ねが大切な力になってくれることでしょう。私たち職員も、児童の想いに寄り添い支援していきたいと思ってます。

一日一日を大切に

寒 の入りも過ぎ、いよいよ寒さも本番を迎えました。
現在ラブでは、4名の子ども達が高校卒業や大学進学、進級など新たな節目に向け、心機一転し生活しています。
先日、大学進学を目指していた一人の児童の志望校の合格発表がありました。結果は見事合格でした。ラブに入居した当初から将来の目標を持ち、大学進学を希望して毎日遅くまで勉強に励んでいました。元々外国籍で数年前に来日し、日常的なやりとりは問題なく行えるまでに日本語は上達していますが、大学受験で用いられるような日本人にとっては当たり前の単語の意味1つ1つが本人にとっては壁となり、立ちはだかりました。そうした壁を前にして、本人が発していた「人より2倍も3倍も頑張らないと」という言葉通りのひたむきな努力が実を結んだのだと職員一同すごく感心させられました。また、これまで勉強の為に我慢していたホームや法人のイベントも、少し余裕ができた今、「たくさん参加してホームのみんなと思いを作りたい」と話し楽しみにしています。1月の法人の修学旅行や3月のホームでの日帰り旅行などを心待ちにしているようです。4月は進学にあたって引っ越しも控えており、ホームで過



ごす日々が残りわずかとなりました。そのわずかな時間が本人にとって、楽しく、実り多い時間となるように1日1日を大切に過ごしてほしいと考え、日々成長を促せるように支援していきたいと思っています。



やるべきことをコツコツと

厳 しい寒さが続きますが、庵では現在8名の児童が元気いっぱいに生活をしています。12月末から新しい利用者が2名増えて、クリスマス、お正月と賑やかに過ごしました。
現在高校3年生の1人の児童は、通信制高校に通いながら毎日牧場へアルバイトに行っています。
アルバイトが多忙でなかなか学校のレポートをする時間もとれずに、スクーリングへの参加も危ぶまれましたが、きちんと提出期限に間に合うようにレポートを提出し、無事に高校最後のスクーリングに参加ができました。
また、自立に向けて少しずつ意識も変化している様子もあります。
今後の一人暮らしを見越して職員と一緒に不動産屋へ行き、初期費用や家賃の相場を教えたらうと、これまでコンビニで買い物为主でしたが、節約を意識してスーパーで買い物をするようになりました。
いつか来る自立が近付いていることに気付き、小さなところから改善しようとする姿に成長を感じました。まだ住む場所などは就職予



定先との兼ね合いで悩んでいるようですが、やるべきことは時間がかかりながらも達成する児童であるため、本人の状況を確認しながら見守っていこうと考えています。庵には高校3年生の年度の児童が多く、就職など人生の岐路に立つ大事な時期なので真摯に丁寧に関わっていくことを職員一同意識した支援を目指します。

PERCHクリスマスパーティー

テ ンポラリくまもとでは、現在アシストルームの児童を含め4名の児童が入所しています。17歳のMさんは、「アルバイトをして貯金をし、アシストルームへ行き早く自立したい」という目標をもち、居酒屋のアルバイトを頑張っています。行きたくないとする日も、お金を貯めないと!と言い休むことなく行っています。そんなMさんの楽しみの一つは、ホームやアイグループのイベントです!!入所当初は、反動的な態度や反発心がありイベント事には参加してきませんでした。今まで参加しなかった分、1つでも多く楽しみたいと積極的に参加しています。12月のPERCH企画のクリスマスパーティーもその1つ。「いつ行く?」と職員に何度も尋ねながら楽しみにしていました。いつもは、バイト前の夕方近くまで寝ていますが、当日はメイクも着替えもバッチリで出発時間前には準備完了!!PERCHに到着すると、店内に飾られたクリスマス飾りやテーブルに置かれた花にボルテージは一気に上がり、スマホを片手に写真を撮をたくさん撮っていました。チーズカレードリアにプチクレープ…沢山のメニューを好きだけオーダーし「こんなに食べていいと?」と言いながら口にしていました。



今回2名の児童で参加させていただきました。普段はあまり関わる事のない2人ですが、一緒に写真を撮ったりビンゴで手にした賞品を見せ合うなど楽しそうに関わり合う姿に嬉しく思いました。予定より長くPERCHにいましたが、楽しい時間はあっという間です。「もっと居たいな」「楽しかった」という言葉と笑顔に、心豊かな気持ちでいっぱいになった一日でした。Mさんにとって、日々の生活は楽しいことはばかりでなく大変なこともあります。だからこそ、イベントを通し笑って過ごせる楽しい時間を共有し、一緒に思い出を重ねていきたいと思います。

クリスマスパーティー

令 和6年11月より新たに1名の児童が入居し、現在5名の児童が生活しています。新しく入居したMさんは全日制の高校に在籍していますが、環境の変化からか11月後半から遅刻や欠席が増えてしまいました。Mさんが安心してテンポラリーくまもと2号室での生活を過ごせるようMさんの思いに寄り添いながらコミュニケーションを図ったり、他児童との間に入ったりと関わる機会をたくさん設けました。学校の先生と話し合いの場を作り、今後どのように支援していくかそれぞれの立ち位置での役割を確認しました。Mさんに進級したいとの思いがある事を確認し、職員間でも話し合いました。その後少しずつMさんの生活に変化がみられ、自分で朝起きることが出来るようになり、学校登校を頑張っています。12月24日に開催したクリスマスパーティーの日は学校が終わってからパーティーに参加の予定だったため、パーティーに間に合わないかもしれないと話していました。パーティーをととても楽しみにしており学校が終わってすぐに帰宅してくれたため、みんなで一緒にクリスマスパーティーをスタートすることができました。楽しく会



話をしながら料理をたくさん食べている児童の笑顔を見ることができ嬉しく思いました。
クリスマスプレゼントは、各自好きなプレゼントを選び、心から喜んでいました。プレゼントをすぐに部屋に持って行き並べて眺め、とても嬉しそうでした。これからもイベントを開催し、みんなで食事を囲んで楽しく過ごす時間を大事にしていきたいと思います。

一人一人が新しい道に向かって

新 年あけましておめでとうございます。
児童と新年を無事に迎えることができた嬉しさと、児童のこれからの成長を楽しみにしています。児童の抱負には「一人暮らしのために貯金をする」「バイトを継続する」「高校卒業」と書いており、その目標が少しでも実現できるように職員として支援をしていきたいと思っております。

先月の12月にはホームでクリスマス会をしました。ツリーを持ってきた瞬間に児童から小さな歓声があがり、児童同士でツリーの組み立てを行いました。キラキラと光るイルミネーションが児童の心も灯してくれているようで、職員も一緒に見とれていました。食事でもクリスマスらしく、また児童の食べたいものを事前に聞き取り用意をしました。普段は部屋にこもりがちな児童もリビングで食事をとり、他児童とコミュニケーションをとっていました。クリスマスプレゼントも買いに行くところから大変賑やかで、楽しそうにしており職員も嬉しく、ホームを出てからも時折思い出してほしいなと思います。



1月の後半には修学旅行という一大イベントがあります。先に楽しんだ児童から話を聞いており心待ちにしていました。何に乗ろうかな、大阪名物はこんなのがあるよ、自由行動ではここに行きたいと思いいに話しており、職員も一緒に楽しみにしながら思い出をいっぱい作れるようにしたいと思います。
今年もよろしくお願いいたします。



ホッと安心できる温かい場所、信頼の置ける大人でありたい。

新 年あけましておめでとうございます。
テンポラリーでは、12月に入居者が1名増え7名の子どもたちが生活しています。12月には、児童発案のイベントで糸島の牡蠣小屋に行きました。普段、各々の生活が忙しくあまり揃って食事をする事ができないテンポラリーですが、この日は焼き台を囲み好きな異性のタイプやテンポラリー開所時からいた子どもたちが当時のことを振り返ったりと様々な話に花を咲かせ、子どもたちの笑顔を沢山見ることができた1日となりました。牡蠣イベントを企画した子は、楽しそうに全員分の牡蠣を全て一人で焼き振舞ってくれました。その姿を見て優しさや気遣いに心が温かくなりました。今回のイベントでは、お互いを知る良い機会になったのではないかなと思います。また、お正月には新年の抱負を書いてもらいました。「今できることがあるか常に考えて行動する」「働く」「単位として高校二年生になる」「バイトと学校の両立」「アルバイトを始めて辞めずにずっと続ける」など目標は様々。“一年の計は元旦にあり”ということわざもあります。それぞれの目標に向け職員も力になれるよ



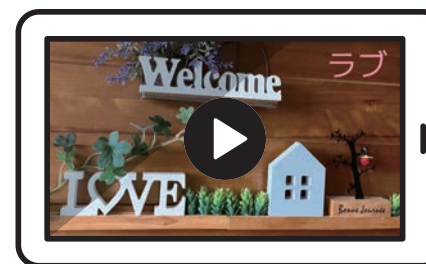
う全力で応援し、最良のサポートをしていきたいと思っています。
2025年も子どもたちの成長を見守り、職員も共に成長していきたいです。子どもたちにとってホッと安心できる居場所、なんでも相談できる信頼の置ける大人でありたいと思い、1日1日を大切に過ごしていきたいです。今年もよろしくお願いいたします。

子どもたちからの メッセージ 2025 冬

いつもアイグループを応援していただき、ありがとうございます。支援者のみなさまに子どもたちからのメッセージ動画を送ります。
下記にある動画視聴方法から、動画をぜひご覧ください。



メッセージ動画



通信誌 vol.14

これからも、子どもたちの応援を
よろしくお願い致します。

スマホでこどもたちの動画をご覧ください。



専用アプリ(無料)

COCOAR

で検索もしくは、

下記のQRコードよりダウンロードしてお楽しみください。

iPhone版



Android版

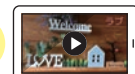


■動画視聴方法

1 COCOARを起動、スキャンをタップ。



2 にCOCOARをかざします。



3 動画がスマホで見られます。



ぜひお試しください！